

電子ブック

コンプライアンスと法規制に 関する4つの課題とモダンな データカタログが解決で きること

インフォマティカのデータカタログで規制順守、
データ保護、AIガバナンスを実現する方法

コンプライアンスと法規制に関する 4 つの課題とモダンなデータカタログが解決できること

目次

課題1: 複雑なデータ環境におけるレポート作成	4
課題2: データを保護しながら価値を最大限に引き出す	6
課題3: AI透明性に対する要求への対応	8
課題4: 変化し続ける規制要件への適応	10
Cloud Data Governance and Catalogでコンプライアンス戦略を速やかに開始	13
企業情報	14

はじめに

企業は、世界中のさまざまな要件や標準に沿ってデータ業務を遂行することを法規制によって義務付けられています。政府・規制当局は、データのプライバシー／セキュリティ、財務報告、環境の持続可能性、腐敗行為防止に関するコンプライアンス要件に加え、組織内での普及が進む人工知能（AI）テクノロジーにも目を向けるようになってきました。世界中の複雑化する規制上の義務やAI法規制に基づいた要件への対応に取り組む中、データチームはさまざまな課題に直面しています。

コンプライアンス違反が発生すれば、規制違反の罰則や改善措置のコストにつながる可能性があります。規制違反の罰則については、グローバルな金融機関に対する罰金が 2024 年比で 417%増加するなど、2025 年前半に過去最高を記録しました。¹

コンプライアンス違反の原因の多くが、「混沌としたデータ環境」です。これは、データやデータ関連業務がサイロ化している、または隠れている状態を意味します。この問題はさらに悪化することになるでしょう。**最近の調査**によると、CDO の 79%がデータソースの増加を予想しており、41%が現在のデータ環境を適切な状態に保つことに苦勞しています。しかし、モダンなデータカタログがあれば、保有するデータをより正確に理解して、どのデータを共有するかをより厳密に制御できます。また、コンプライアンスの維持も簡素化されます。

このガイドでは、企業が規制要件を遵守するために克服しなければならない 4 つの重要課題について概説します。また、モダンなデータカタログがいかにしてデータの可視性と制御性を高め、データチームによる課題解決を支援するかについても説明します。具体的には、データカタログ、データ品質、データアクセスマネジメントを単一のソリューションに統合した**インフォマティカの Cloud Data Governance and Catalog (CDGC)** が、どのように法規制へのコンプライアンスとレポート作成の厳格化に役立つのかをご紹介します。

¹ <https://resources.fenergo.com/newsroom/regulatory-penalties-for-global-financial-institutions-skyrocket-417-in-h1-2025>

課題1

複雑なデータ環境におけるレポート作成

今日の企業は、デジタル業務をサポートするために膨大な量のデータを処理しています。そして、AIの普及によってデータ量がさらに急増しています。AIモデルには、大量かつ多様なトレーニングデータが必要です。その結果、企業は以前よりもはるかに大規模なデータセットに関して、コンプライアンスの維持が求められるようになっていきます。

さらに、データ形式の種類も急増しています。現在のデータの形式は、文書、画像、契約書、電子メール、プレゼンテーション、ソーシャルストリームなど、多岐にわたります。IDC 社によると、企業データの 90% 近くが非構造化データであり、非構造化データの量は今後 5 年間で 30% の年平均成長率 (CAGR) で増加することになります。² コンプライアンスレポートのためには、データを最新の状態に維持して、正確なインベントリを作成することが不可欠ですが、膨大な、多様かつ高速度の構造化データ、半構造化データ、非構造化データが存在するため、それが困難になっています。

モダンなデータ、アナリティクス、AI 活用をサポートするためには、通常、複雑なデータアーキテクチャが必要です。そして、このようなデータアーキテクチャは、多くの場合、連携のない複数のソース、システム、アプリケーション、プラットフォームで構成されています。企業の 50% が、**データマネジメント**に必要なツールを入手するために 5 社以上のソフトウェアベンダーを利用しています。³ 複雑な統合やパイプラインに分散したデータをモニタリングしていると、正確なレポート作成や監査を行うことが困難になります。

モダンなデータカタログで法定レポートの作成を整流化

モダンなデータカタログがあれば、信頼できるレポート作成と説明責任のための基本的なインテリジェンスを獲得して、複雑な法規制に対応できます。また、自動化を通じて大規模なデータ管理が可能になります。今日の複雑なデータ/AI エコシステムで必要となる大量、多様、かつ高速度のデータに対処するためには、自動化が不可欠となります。

データカタログがあれば、データソースが複雑であったり多様であったりしても、データマネジメントプロセス (データ環境全体でのデータディスカバリ/分類など) を自動化および整流化できます。データのソース、データの移動、アプリケーション/システム間でのデータの変換を追跡できるため、効率的かつ効果的な監査とレポート作成が実現します。

規制当局と関係者は、データの使用、同意、セキュリティについて、明確で詳細なレポートを求めています。モダンなデータカタログを使用することで、企業全体のメタデータを連携して基盤を構築できます。これにより、コンプライアンスチームは、コンプライアンス上の最重要 KPI (品質、プライバシー、アクセスなど) に関するレポートを作成できます。

データカタログによって継続的なモニタリング、明確な報告チャンネルやシステム、コンプライアンス関連データの統合ビューを獲得できるため、規制要件に沿って業務を遂行し、深刻な罰則を回避できます。

² <https://shelf.io/wp-content/uploads/2024/10/idc-unstructured-data-report-sept-2024.pdf>

³ 『CDOインサイト2025』

課題1

複雑なデータ環境におけるレポート作成 (続き)

インフォマティカ CDGC の差別化要因

インフォマティカの **CLAIRE®** エージェントは、企業のデータマネジメントを強化する自律型デジタルアシスタントです。このエージェントにより、複雑なワークフローを簡素化して、エラーを最小化し、人間による介入の必要性を抑制できます。このAIエージェント搭載ソリューションは、インテリジェントな自動化を通じて、重要機能（データディスカバリ、探索、統合、品質マネジメントなど）を強化して、複雑なマルチクラウド環境全体のコンプライアンスプロセスを整流化します。

インフォマティカの Cloud Data Governance and Catalog (CDGC) は、サードパーティのソースに対する幅広く充実した接続性を備えており、複雑なソース（BI ツール、マルチベンダーの ETL ツール、エンタープライズアプリケーションなど）から自動でメタデータを抽出してエンリッチ化します。CDGC により、さまざまなデータタイプ（構造化データファイル、非構造化データファイルなど）をスキャン、分類、カタログ化して、中央カタログ内で生成 AI 用コンテンツをキュレーションできます。インテリジェンスを備えた中央メタデータシステムにより、自社のデータ運用に対する理解を深めて、監査可能性と法定レポートの作成を強化できます。

CDGC には、**データ品質**、**データガバナンス**、データ保護、アクセスマネジメントの各種機能が統合されています。コンプライアンスに必要なすべての機能が一元化されているため、ツールの断片化に悩まされることなく、法定レポートの作成を一元化できます。



スポットライト

Dr. Reddy's 社：インフォマティカでクラウドデータの複雑性を解消

Dr. Reddy's Laboratories 社は、インドに本社を置く多国籍製薬会社です。同社は、データマネジメントを簡素化して、各部門（研究開発、製造、サプライチェーン品質など）によるデータアクセスを改善したいと考えていました。CDGC を導入したことで、重要データを適切に整理して、安全性とアクセス性を確保し、そのデータを全員が理解できるようになりました。

[詳細はこちら](#)

課題2

データを保護しながら価値を最大限に引き出す

EU一般データ保護規則（GDPR）、米カリフォルニア州消費者プライバシー法（CCPA）、カナダ個人情報保護および電子文書法（PIPEDA）など、コンプライアンス関連の法規制は世界的に複雑化しています。これは、世界のデジタル化が急速に進み、個人データの利用が増加していることを受けて、各国がデータの保護とプライバシーの権利を強化しているためです。データドリブンな企業が、データプライバシーに関する規制（匿名化、偽名化、その他のデータ最小化原則の義務付け）を遵守しながら、データの民主化（業務担当者がインサイトを獲得して、イノベーションを推進できるようにデータのアクセス性を高めること）を進める際には、さまざまな課題に直面することになります。

データスチュワード（データ管理/案内人）は、どのデータが機密データなのかを把握し、承認済みの業務目的、規制要件、自社のリスク許容度に応じて、データアクセスポリシーを定義する必要があります。データを匿名化することで、機密データの漏えいを防止し、データプライバシーに関する各種規制要件に対応できますが、データの匿名化を大々的に実施するためには適切なツールが必要です。最も成功している企業は、データを共有/アクセスするすべての場所にプライバシーと説明責任を組み込むことで、データの誤用リスクに対処しています。

モダンなデータカタログでコンプライアンスを徹底

コンプライアンスに準拠した適切なデータアクセスのためには、全社レベルでのメタデータインテリジェンスとポリシー適用が不可欠です。モダンなデータカタログは、データ保護のためのインテリジェントな中核基盤となります。AI搭載の機密データディスカバリ機能と特化型の分類機能があれば、規制対象データを正確に識別して、より簡単に規制要件に沿ってデータを管理できます。

データアクセスマネジメントとは、ポリシーに基づいて、データライフサイクル全体のアクセスコントロールと匿名化処理を自動化することです。データカタログのディスカバリ機能や分類機能を使用することで、状況に沿ってアクセスコントロールを正確に適用し、データの有用性を損なうことなく、データを保護できます。ポリシー適用と豊富なメタデータマネジメントを兼ね備えたモダンなデータカタログにより、コンプライアンスと競争優位性を適切なバランスに保つことができます。

課題2

データを保護しながら価値を最大限に引き出す (続き)

CDGCの差別化要因

他のデータカタログとは違い、CDGCは複数のデータアクセスマネジメント機能を備えた単一のソリューションです。インテリジェントなディスカバリ機能と分類機能を通じて、データを保護し、アクセスをコントロールします。データ、ユーザー、コンテキストといった属性に従って、ルール/ポリシー別に適切なコントロールが整理されています。CDGCは、AIを活用したメタデータインテリジェンスにより、データとデータ利用の状況を理解した上で、自動的にレコードをフィルタリングして、SnowflakeやDatabricksなどの他のプラットフォームで 사용되는データを含め、あらゆる状況に応じてデータ保護アルゴリズムを適用します。

インフォマティカのデータアクセスマネジメント機能により、コンプライアンス戦略と業務目標を整合させることができます。さらに、データスチュワードと業務担当者は、CDGCの直感的かつノーコードのポリシーオーサリング機能を使用して、ポリシーを定義し、データアクセスマネジメントを承認済みの業務利用、法規制フレームワーク、リスク許容度にマッピングできます。その結果、データやコンプライアンスプロセスの信頼性を強化しながら、セルフサービスでのデータアクセスを提供し、イノベーションと競争優位性を促進できます。



スポットライト

Genesis Energy社：インフォマティカでコンプライアンスとプライバシーの実務を強化

Genesis Energy社は、ニュージーランドの大手エネルギー企業です。同社は、分散している複雑なエコシステムに散らばっているデータを統合するという課題に直面していました。同社は、インフォマティカのCDGCとCloud Data Quality (CDQ) サービスをベースとした新しいデータガバナンスフレームワークと機能により、コンプライアンスやプライバシーの実務を大幅に強化することに成功しました。

[詳細はこちら](#)

課題3

AI透明性に対する要求への対応

AIアプリケーションの普及に伴い、透明性、バイアス、誤用の可能性への懸念が高まっています。AIモデルのトレーニングやモニタリングを適切に行わないと、バイアスが永続化してしまい、個人やグループを不当に扱うことにつながります。潜在的な危害を緩和するためには、AIガバナンスが重要です。EU AI法などの新たなAI規制では、説明可能性を確保して、アルゴリズムのバイアスを緩和し、AIイニシアチブに倫理規定を組み込むことを重視しています。

透明性と説明責任に対する規制当局の要求が高まっているため、組織は堅強な実務を採用して、自社のデータ/AI運用を明確に理解していることを証明する必要があります。また、企業は基盤となるLLMおよび入力データセットからAIを活用して（人間の介入の有無にかかわらず）行われる意思決定にいたるまで、AIシステムのライフサイクルを文書化して説明できなければなりません。

多くの企業では、法規制に準拠しながらAIを大規模に展開するための準備が整っていません。サイロ化されたデータや不明瞭なガバナンスプロセスは、計画の妨げとなります。CDOの93%が、規制環境によってAIへの取り組みが妨げられてきたと回答しており、そのうち39%は、プロジェクトがこれにより立ち往生した経験を持っています。⁴AIガバナンスを導入するためのフレームワークがなければ、偏った結果、規制違反の罰則、評判の失墜などのリスクが発生します。

⁴ https://www.informatica.com/ja/lp/cdo-insights-2025_5039.html

モダンなデータカタログでAIの取り組みを妨げる課題を解決

新しいAIテクノロジーが組織にもたらす複雑さや課題に対処するには、AIガバナンスツールが不可欠です。AIガバナンスとデータガバナンスはどちらも、データ/AIの使用に関するポリシーを設定して、生産性を高めて、リスクを軽減し、コンプライアンスを確保することを目的としています。そのための信頼できるAI基盤となるのが、モダンなデータカタログです。

高品質データは、AIシステムの基盤、トレーニング、微調整、評価に欠かせません。AIの使用事例には、信頼性と関連性の高い最新データが求められます。業務プロセスや意思決定にAIを活用する機会が増える中、モダンなデータカタログがあれば、公平性と正確性を妨げている障壁を特定し、それに対処できます。データカタログは、アルゴリズムをどのように使用し、リスクや潜在的なバイアスをどのように緩和しているのかを説明するために必要なインテリジェンスを収集するための最適なソリューションです。

モダンなデータカタログは、複数のプラットフォームと環境にわたって、広範かつ充実したメタデータ接続性を備えているため、すべてのデータ/AIシステムからメタデータを抽出して文書化できます。AIモデルの自動プロファイリングにより、パターン、データタイプ、潜在的問題を特定することで、コンプライアンスをサポートできるだけでなく、本番環境でのAI活用を加速できます。

課題3

AI透明性に対する要求への対応 (続き)

CDGC の差別化要因

インフォマティカが提供するAI搭載データカタログにより、新時代のエージェントAIに対応できます。CDGCは、AIシステム、エージェント、モデルのための堅強かつ包括的なカタログ化機能を備えています。AI資産のインベントリ機能には、カスタマイズ可能な評価指標が含まれており、機密データ要素に関するリスクが表示されます。さらに、リネージを視覚化し、AIモデルがどのように開発されて、他のプロジェクトで再利用されているのかもモニタリングできます。

業務担当者に使いやすいCDGCのワークフロービルダーにより、データスチュワードは準備から承認、実装にいたるAIガバナンスを実行できます。CDGCにより、各関係者がコラボレーションを通じて必要なチェックを行い、バランスを調整して、実装するAIモデルを承認できるため、新しいAI使用事例を迅速に導入できます。

CDGCに搭載されたインフォマティカの先進のデータ品質機能により、モデルトレーニング用データのプロファイリングを行い、データ品質ルールを定義して、データ品質を継続的にモニタリングすることで、基準に従って、正確でバイアスのない意思決定を行えます。データカタログ、データ品質、アクセスマネジメントの各機能を備えた単一のソリューションを使用して、複数のAIガバナンス/コンプライアンスタスクに取り組むことができます。

また、インフォマティカのソリューションは、AIのライフサイクル全体（データの調達、モデルの登録、リネージ、モニタリング、運用に関する責任の明確化など）の可視化とコントロールを可能にします。これにより企業としての俊敏性を高め、リスクを緩和し、AIの戦略的可能性を安全かつ責任ある方法で最大限に引き出すことができます。



スポットライト

インフォマティカがGartner® メタデータ管理のMagic Quadrant™ でリーダーの1社に位置付けられた理由

データの検索、利用、管理を簡素化するためには、先進の**メタデータマネジメント**プラットフォームが不可欠です。多くの企業がメタデータ業務を強化しようとしていますが、Gartner® メタデータ管理のMagic Quadrant™ において、**インフォマティカはリーダーの1社**に位置付けられているソリューションプロバイダーです。

[詳細はこちら](#)

課題4

変化し続ける規制要件への適応

次々と登場する新しい法規制により、コンプライアンス環境は変化し続けており、データエンジニアリング/コンプライアンスチームの大きな負担となっています。データ処理、プライバシー、セキュリティのための厳格なガイドラインに沿ってデータをインGEST、統合、変換するためのパイプラインを作成し、ワークフローを頻繁に更新して法規制の変更に対応しなければならないため、業務がますます複雑化しています。データプライバシー保護のさまざまな法規制（GDPR、CCPA、HIPAAなど）、財務報告法（SOXなど）、ESGガイドライン、新しいAI規制（EU AI法など）をはじめとするさまざまな法律に従って、データの利用を継続的にモニタリングする必要があります。

とりわけ多国籍企業にとって、さまざまな規制要件を社内の技術要件や業務要件に落とし込むことは容易ではありません。複数の地域で事業を展開している企業は、複数の異なるポリシーや標準（データレジデンシー条項、国境を越えるデータ転送のプロトコルなど）に従う必要があるため、全社レベルでコンプライアンスを確保することが非常に困難です。ハードコード化された旧式のカatalogツールでは、頻繁に変更される法規制や地域ごとの微妙な差異に対応できません。手作業による大幅な再コーディングが必要となり、多大なコストがかかるため、持続可能ではありません。

適切なCatalogツールがなければ、データチームは常に法規制への対応に追われ続けることとなります。ガバナンスフレームワークの適応に時間がかかるため、新たなリスクに長期的に晒されることとなります。ガバナンスプロセスの再調整に多くの手作業が必要になると、作業が長期化し、コンプライアンスのコストが増大します。



課題4

変化し続ける規制要件への適応 (続き)

モダンなデータカタログで適応型のコンプライアンスフレームワークを確立

業務要件に迅速に適応可能なコンプライアンスフレームワークを構築および運用するためには、モダンなデータカタログがもたらす柔軟性と拡張性が不可欠です。マルチクラウド/ハイブリッド環境をサポートするモダンなデータカタログにより、さまざまな異種データソースに簡単に接続して、大幅な再開発作業を行うことなく、適用法に従って、データソースのインベントリ化を行うことができます。

幅広い接続性を備えたモダンなカタログにより、どれだけ複雑で多様な異種データ環境であっても、環境全体の統合ビューを確立できます。どのようなデータを保有しているのか？そのデータはどこにあるのか？責任者は誰か？どのように使用されているのか？コンプライアンスのパラメーターに変更があった際に速やかに対応するためには、上記の問いへの答えを即座に把握できるようにする必要があります。

データカタログは、メタデータを活用して、インテリジェンスを備えたデータシステムを構築します。メタデータに基づいて、ビジネス定義、グロッサリ、ポリシー、基準を標準化することで、全員が理解できる共通の言語を通じて、企業全体のデータをガバナンスできます。すべてのデータ関係者の認識を揃えることで、誤解が発生するリスクを回避し、変更にタイムリーかつ効果的に対応できます。

中央データカタログにより、各データチームは共通のプラットフォームを通じて戦略を実行し、データのサイロ化を防止できます。共通のコラボレーションプラットフォームを通じて、標準化されたデータプロセスを一元的に実装できると同時に、各チームは頻繁に変更される法規制や地域ごとの微妙な差異に柔軟に対応できます。

一元的なビューにより、データを詳細に探索して、レポート作成を自動化できます。コンプライアンスチームは、特定のKPIにフォーカスしたデータ使用状況レポートを生成して、法規制へのコンプライアンスを厳格にモニタリングし、必要に応じて改善措置を講じることができます。

課題4

変化し続ける規制要件への適応 (続き)

CDGC の差別化要因

Informatica CDGC により、データインテリジェンスを一元化して、組織内の異種データ環境に分散するメタデータを統合および管理できます。CDGC が「カタログのカタログ」となることで、さまざまなデータソース（データベース、データレイク、クラウドストレージなど）に接続して、複数のカタログを同時に検索し、データ資産の包括的なインベントリを作成できます。

インフォマティカのアプローチは、シームレスな統合、効率的な検索、コラボレーション、堅強なガバナンス機能などを特長としています。このアプローチにより、一元化された、単一の AI 搭載プラットフォームを通じて、データ資産の価値を最大限に引き出すことができます。

インフォマティカの AI エンジンである **CLAIRE**® により、生成 AI を活用してデータのキュレーション（グロッサリの作成、分類、詳細な説明など）を行えるため、ポリシーに最小限の更新があった場合でも、数時間分もの手作業を削減できます。



スポットライト

Jotun社：インフォマティカソリューションで複雑な規制要件を管理

ノルウェーのグローバルメーカーである Jotun 社は、インフォマティカが提供する先進の AI 搭載パターン認識機能を活用して、法定レポートや ESG（環境・社会・ガバナンス）レポートを作成しています。また、柔軟なクラウドネイティブアーキテクチャにより、新しい要件にもコスト効率的に適応しています。

[詳細はこちら](#)

コンプライアンスと法規制に関する4つの課題とモダンなデータカタログが解決できること

Cloud Data Governance and Catalogで コンプライアンス戦略を速やかに開始

CDGCを導入することで、断片化したツール環境から脱却し、コンプライアンスリスクを緩和することが可能になります。CDGCは、コンプライアンス業務の整流化とガバナンスタスクの自動化を実現し、説明可能なAIのためのエンドツーエンドのデータリネージと透明性を提供します。

インフォマティカの **Cloud Data Governance and Catalog (CDGC)** を活用すれば、非常に複雑で断片化しているデータ環境であっても、透明性を確保し、規制要件に対応することができます。

- 広範な接続性により、すべてのデータソース、システム、アプリケーションにアクセスできます。
- AI搭載のデータガバナンス機能により、マルチクラウド/ハイブリッド環境に分散するデータを自動的に検出、分類、監視、保護できます。
- メタデータマネジメントにおけるリーダーであるインフォマティカのソリューションにより、自社のデータを速やかに把握して、新しい要件に対応できます。
- 統合データアクセスマネジメント機能により、コンプライアンスポリシーをエンタープライズ規模で自動的に適用できます。
- 詳細なダッシュボードにより、コンプライアンスパフォーマンスをリアルタイムで評価できます。

コンプライアンスを負担から競争優位性へと変革する——今すぐ**インフォマティカ**までご連絡ください。



企業情報

インフォマティカについて

インフォマティカ（Salesforce グループ）は、エンタープライズ向け AI 搭載クラウドデータマネジメントにおけるリーディング企業です。インフォマティカの Intelligent Data Management Cloud (IDMC) プラットフォームにより、お客様はエンタープライズ環境全体を通じて AI 対応データを接続、管理、統合することが可能になります。データカタログ、データ統合、データガバナンス、データ品質、プライバシー、メタデータマネジメント、マスターデータマネジメントを網羅した広範な機能を提供するとともに幅広いパートナーエコシステムをサポートすることで、インフォマティカはお客様がデータ/AI イニシアチブから最大の価値を引き出すことを支援します。

Salesforce について

Salesforce が提供する業界 No.1 の AI CRM により、お客様は人工知能（AI）、データ、信頼の力を基盤に、これまでとは異なるまったく新しい方法で顧客とつながることが可能になります。Salesforce（NYSE：CRM）の詳細は、www.salesforce.com をご覧ください。

IN19-5280-0126

© Copyright Informatica LLC 2026. Informatica、Informatica ロゴは、米国およびその他の国における Informatica LLC の商標または登録商標です。インフォマティカの商標の最新版については、<https://www.informatica.com/ja/trademarks.html> をご覧ください。その他すべての企業名および製品名は、各社が所有する商号または商標です。本文書に記載されている情報は、予告なく変更されることがあり、現状のまま提供され、明示または黙示を問わず一切の保証を伴いません。

informatica.com

Where data & AI come to



〒 105-6226 東京都港区愛宕 2-5-1
愛宕グリーンヒルズ MORI タワー 26 階
電話：03-6403-7600(代表)
FAX：03-3433-1021

informatica.com/ja
x.com/Informatica

お問い合わせ